

ご案内

《天白文化小劇場》

地下鉄原駅下車 2番出口

原駅上

原バスターミナル4F

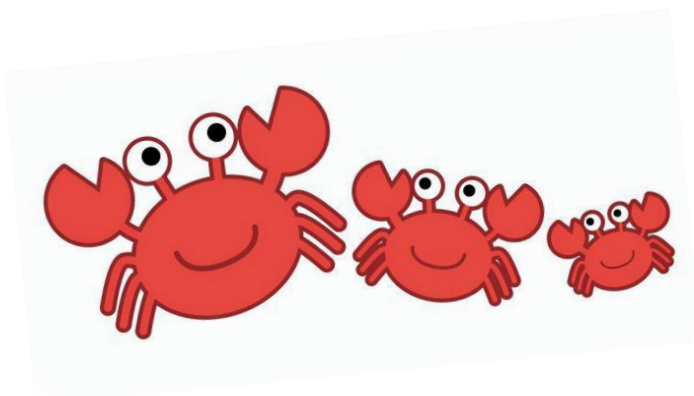
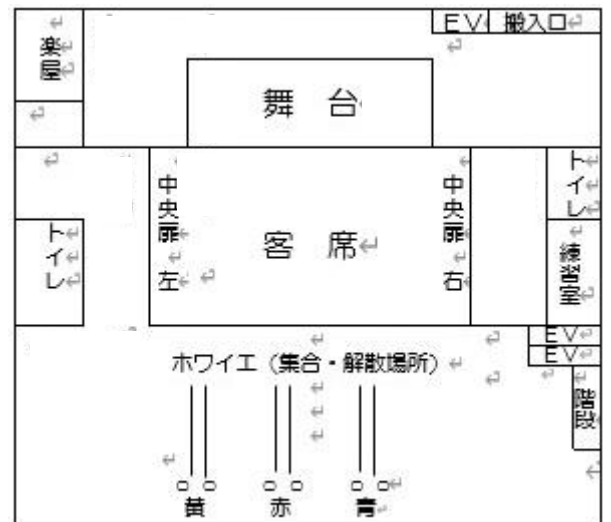
※注意※

地下駐車場は主催者・業者が利用いたしますので**駐車禁止**とさせていただきます。交通機関をご利用の上ご来場ください。



《会場案内図》

- ★集合時間にホールホワイエ前へお子さまを連れてお越しください。
- ★各部の発表終了後、お子さまをホールホワイエにお連れしますので、順次お帰りください。
- ★撮影は、会場内の決められた場所でのみお願いします。



栄光八事幼稚園
劇あそび発表会

令和8年2月20日(金)
場所・天白文化小劇場



1部 集合時間・開場 9:10

黄1組 「ぐりとぐら」 9:25

赤1組 「シンドバットの冒険」 9:40

青1組 「石になった狩人」 10:00

終了・解散 10:25

2部 集合時間・開場 10:45

黄2組 「さるかにがっせん」 11:00

青2組 「ごろはちだいみょうじん」 11:15

終了・解散 11:40

幼児劇へのご案内

絵本や物語の世界に出会うと、幼児は身振りやごっこをして、物やことば、相手の気持ちを学んでいきます。そして、物語の役になることで心を動かし、あそびから生まれる会話ややり取りの中で、体から湧き上がる表現、生きたことばを獲得していきます。

本園の劇あそびは、物語を通してイメージした自分の動きやことばを「身ぶり」と「せりふ」で演ずるものです。発表は場面ごとに表現を工夫した「ごっこあそび」の作品化です。

役を交代し合い、子どもたちで各場面をつくり、教師は、「ピアノ音楽やナレーション」を受け持つ、本園独自の情感豊かな物語劇です。1年間の教育の集大成としての劇あそび発表に、教師がどこまでお子様のことばや表現を引き出せるか、仲間づくりができるか、豊かな作品に協力して仕上げられるか、お子様の育ちとともにご鑑賞ください。

なお鑑賞にあたって、クラスごとに劇のあらすじと担任からのメッセージを掲載いたしました。仲間づくり、舞台構成、演出などの視点からも発表会をお楽しみください。

絵本を楽しめる幼児期は、劇あそびを通して本好きとなり、未来の学習の礎となります。

令和8年2月 岡田 勝彦

黄1組 「ぐりとぐら」 担任：田中 菜月 ピアノ：片山 万季

野ねずみの「ぐり」と「ぐら」はお料理とダンスが大好き。ある日森で木の実を拾っていると、とても大きな卵を見つけました。「おひさまくらい大きなケーキをつくらう！」と決めた2匹は、途中で出会った小鳥さんとウサギさん、ゾウさんに手伝ってもらいながら卵を割って材料を混ぜていきます。しかし、できあがる直前でハプニングが…。さて、ケーキはおいしくできあがるのでしょうか。

「ぐりとぐら」のお話が大好きな子どもたちは、幼稚園の森に行くと「あっ、どんぐり！これでケーキを作ろう。」とお料理が始まります。石を砂糖、砂を牛乳、葉っぱを小麦粉と見立てて夢中になって作る様子は、ワクワクした気持ちが伝わってきて微笑ましかったです。クラスの楽しいが詰まった物語を、どうぞお楽しみください。



黄2組 「さるかにがっせん」 担任：溝田 志帆 ピアノ：片山 万季

昔あるところに、柿の種を拾ったサルと、おにぎりを持ったお母さんガニがいました。サルに「種を植えたら柿がたくさんできるよ！」と言われ、おにぎりとお母さんガニの種を交換しました。サルは、柿が実ると独り占めしたり、お母さんガニに柿を投げてケガをさせたり…。カニたちは仲間と協力してサルをこらしめるためにがんばります。

子どもたちは、登場人物の特徴を考えながら「ハチはおしりに針があるから、チクン！」「栗はこんな形？」「臼はドスンドスンって歩くのかな？」と役になりきって遊んでいます。中でも「♪早く芽を出せ柿の種…」とクラスみんなで歌うところがお気に入りです。そんな子どもたちの可愛い「さるかにがっせん」をどうぞお楽しみください。



赤1組 「シンドバッドの冒険」



担任：内藤 紗也

冒険に出発したシンドバッドは、広い海を進む中で、クジラや大蛇、ロック鳥などに会い、次々と試練に立ち向かっていきます。仲間と力を合わせ、困難を乗り越えながら、シンドバッドの冒険の旅は続いていきます。

この物語が大好きな子どもたちは、毎日「今日はシンドバッドの冒険やる？」と楽しみにする姿が見られました。大蛇や海賊と戦う場面では、一人ひとりが役になりきり、声や動き、表情を工夫しながら、力いっぱい表現する姿が印象的でした。登場人物の気持ちを考え、表現を深めていく中で、物語の世界をみんなで楽しんでいました。さあ、冒険の旅に出発です。子どもたちのダイナミックな表現にご注目いただき、どうぞお楽しみください。

青1組 「石になった狩人」



担任：勝部 華奈

誰にでも分け隔てなく優しい、狩人のハイリブ。ある日、ツルに襲われていた一匹の白蛇の姫を助けたお礼として、竜王から“動物の声が聞こえるようになる”という宝の玉を貰いました。しかし、このことを人に話すと石になってしまうと言われます。何年か後、鳥たちが明日にはこの辺で洪水が起こると話しているのを聞いてしまい…。果たしてハイリブはどうするのでしょうか？

子どもたちは、石になる動きがお気に入り「石になったら瞬きもしないんじゃない？」「動かされても固まった形のままだよ！」と固まり方を試行錯誤する姿がありました。物語の中から、周りの人を思う勇敢で優しい気持ちを学び、ハイリブのようにになりたいと言っていた子どもたちの声に感動しました。青1組の心のこもった表現をどうぞお楽しみください。

青2組 「ごろはちだいみょうじん」



担任：岩月 楓花

村人から「ごろはちだいみょうじんさま」という愛称で呼ばれているたぬきのごろはち。いたずらをして困らせていながらも、心優しい一面もあるごろはちは村人から愛されていました。ある日、初めて村に汽車がやってきます。「汽車ってなんだ？」「どんな形のもの？」「またごろはちのいたずらだろう」と線路の上で噂する村人たちのもとに汽車はどんどん迫ってきます。さて、村人とごろはちの運命は…！？

「たぬきってどんな動き方をするのか？」「村にはどんな人が住んでいるだろう？」さまざま想像を膨らませて身ぶりあそびを行いました。村人とごろはちの温かい関係性や、迫りくる汽車の迫力が見どころの物語。みんなで力を合わせて演じます。青2組の個性あふれる劇をお楽しみください。